



喜多の埜

還暦

今月十五日は敬老の日です。多年にわたり社会に貢献されたお年寄りを敬い大切に、長寿を祝う日とされています。

さて、このお年寄りの範囲ですが、現在では六十五才以上の方を指す場合が多くなり、「人生七十古希稀なり」といわれた時代は遠い昔話になってしまいました。近世までは六十才からお年寄りとされました。

この六十才という年齢は、生まれた年の干支が一巡して、また自分が生まれた年の干支に戻ってくるので「還暦」といいます。

しかし、干支は十二年ごとに一巡ではないのかと思われでしょうが、実は干支には更に上位の十の暦があり、その十の暦を「十干(じゅっかん)」といいます。この十干と十二支の二つを組み合わせることによって、六十年分の暦が出来、それが六十年で一巡するので還暦といえます。ちなみに「干支」という言葉はこの十干十二支からきています。

この「十干(じゅっかん)」とは甲乙丙丁戊己庚申壬癸の十からなり、物の順位に甲乙丙とつけるのもこれが由来です。この十干はさらに上位の木火土金水からなる陰陽五行を細分化したものです。この五行とは常に巡るものとされ、古代ではこの五行が全ての元素であるとされました。故に、人間の年齢も循環するものとされ、この還暦のような年齢法が生まれたともいわれます。

戦後の日本を支えたお年寄りに敬意を表し、敬老の日には孝行を捧げたいものです。

梅田の異常気象について

今年の八月は初旬は大変に暑く、下旬は涼しいといった異常な気象でした。この初旬の間、大阪の梅田では降雨も殆どなく、計測したところ地中の温度も四十度を超えるような異常な状態が続き、その為か、今年は茶屋町の御旅社周辺の街路樹が八月下旬には落葉、または枯死したりと、植物の衰弱が甚だしい状況となり、国内でも有数のヒートアイランド現象の地であるこの梅田で、地球温暖化の最たる兆候を示すに至りました。楽な暮らしを追い求める人類に、神さまは強い警告を発しておられるのやもしれません。

九月の旬

神事の際などに神さまにお供えする食べ物等の事を神饌(じんせん)といい、米・酒・塩・水などのお供え物が基本の神饌となります。

本来、順番や置き方など色々作法があります。が、古来より日々の感謝を込めて「旬のもの」をお供えする素直な心根こそが、神さまが一番お喜びになられるといわれています。

この九月に旬を迎えるものとして、

【野菜】

秋ナス、蓮根、日本南瓜、里芋、ずいき。

【果物】

柿、梨、葡萄、ザク口など。

【魚介類】

秋刀魚、カレイ、カタクチイワシなど。

【その他】

長月の名の通り、日に日に夜が長くなり、明月の夜には秋の七草が風情を添えます。また暑さ寒さも彼岸までの言葉通り、秋風が吹くようになり、気候も体調も変動の季節です。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、

a u、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

